

WEEKLY SIGNAL

平成30年10月19日(金) 1446号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	10/22(月)	10/23(火)	10/24(水)	10/25(木)	10/26(金)
無担保O/N			△0.086% ~ 0.001%		
銀行券	△ 500	ト ン	△ 1,000	△ 2,000	△ 2,000
財政他	△ 4,800	+ 2,000	△ 3,000	+ 5,000	+ 3,000
資金需給	△ 5,300	+ 2,000	△ 4,000	+ 3,000	+ 1,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M・1Y)				交付税特会借入・償還
オペ期日	CP等買入 △ 200 社債等買入 △ 300 被災地支援 △ 100 国債補充 + 1,700				
オペスタート	ETF買入 + 100 被災地支援 + 100 国債補充 △ 1,900		社債等買入 + 1,000		
(日本)	日銀主要銀行貸出動向アンケート調査(10月) 日銀金融システムレポート(2018年10月号) 日EUハイレベル産業・貿易・経済対話全産業活動指数(8月)	日銀、市場調節に関する懇親会 日銀営業毎旬報告(10月20日現在)	日経日本製造業PMI(10月) 景気動向指数(8月確報)	安倍首相が訪中(27日まで) 企業向けサービス価格指数 前年比(9月)	消費者物価指数(東京都都区部、10月)
(海外)		米 ミネアポリス連銀総裁、講演 米 グラス連銀総裁、講演 英 カーニー中銀総裁、講演(トロント) ユーロ圏 消費者信頼感指数(10月、速報値)	WTO閣僚会合(オタワ、25日まで) 米 アトランタ連銀総裁、講演 米 カンザスシティ連銀総裁、講演(シドニー) 米 クラブランド連銀総裁、講演 米 地区連銀経済報告(ベージュブック) ユーロ圏 マネーサプライ(9月) ユーロ圏 総合PMI(10月、速報値)	ECB、金融政策会合・記者会見 米 クラブランド連銀総裁、講演 米 クラリダFRB副議長、講演 米 新規失業保険申請件数(10月20日終了週)	米 GDP(7-9月、速報値) 米 ミシガン大学消費者マインド'指数(10月、確定値)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.030 ~ 0.050
SPOT 2M	△0.020 ~ 0.060
SPOT 3M	△0.010 ~ 0.070
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.100

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、年金定時払いを主因に前週末比9兆1,900億円増加の396兆6,300億円から始まった。16日にはCP等買入オペを主因に同残高は396兆8,100億円まで増加したが、その後は国債発行等を主因に減少し、395兆3,300億円(予想値)で越えた。無担保コールON物加重平均金利は、積み期最終日である15日は、日銀当座預金の基礎残高・マクロ加算残高の調整を目的とした調達ニーズが強く、△0.039%となった。新積み期に入った16日以降は、大手行を中心に調達ニーズが弱まった。そのため出合の水準は低下し、同金利は△0.068%~△0.058%で推移した。ターム物は1W~2W物を中心に、主に△0.035%~△0.025%の水準で出合が見られた。19日に総務省より公表された9月の全国消費者物価指数(2015年基準)によると、生鮮食品を除く総合が101.3ポイントと、7か月ぶりに前年比1.0%上昇した。同指数の上昇は、21か月連続となった。来週の主な予定は、国内では日銀による市場調節に関する懇親会(23日)や、総務省による10月の消費者物価指数(東京都都区部)の公表(26日)などがあり、海外ではECBによる金融政策会合、及びドラギ総裁の記者会見(25日)や、米GDP(7-9月、速報値)の公表(26日)などがある。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	△0.010 ~ 0.000
TDB 3M	△0.350 ~ △0.250
現先(on/1w)	△0.050 ~ 0.000

<C P>

今週の入札発行総額は約7,100億円で、週間償還額(3,200億円)から増加した。発行市場は、連日商社やその他金融等の大型案件の発行と、幅広い業種からの発行が散見されるなど活況となった。発行レートは、引き続きディーラーの購入ニーズが強く、マイナスから0%近辺の出合い。週末の発行市場残高は18兆1千億円程度となり、先週末比3,000億円弱の増加となった(先週末残：17兆8,159億円)。来週の償還総額は、3,200億円程度となっている。5・10日発行が見込まれることから、発行超が予想される。発行レートは、ディーラーや投資家の購入ニーズが強く、変わらずマイナス~0%近辺の出合いを予想する。26日には、CP等買入オペが2,000億円程度オファーされる予定である。

<TDB>

18日に行われた1Y790回債入札は、最高落札レート△0.1551%(前回債△0.1318%)、平均落札レート△0.1681%(同△0.1358%)と前回からマイナス幅を拡大。19日入札の3M791回債は最高落札レート△0.2772%(前回債△0.2716%)、平均落札レート△0.2966%(同△0.2847%)と前回から小幅利回りが低下した。前回債に引き続き、年末越え特有の担保需要や円を有利に調達できる海外勢のニーズから、特に3M物が深いマイナス圏で推移している。週末のセカンダリー市場は、3Mが△0.285%程度と入札水準の出合、6M物が△0.19%程度の出合、1Yが△0.175%程度の出合であった。来週は26日に3Mの入札が予定されている。

<レポ>

銘柄先決めGC取引は週初△0.15%近辺から始まり、週中にかけて△0.135%~△0.15%で推移。短期1Y、3Mの発行が重なった22日受け渡しでは、△0.125%~△0.13%近辺までレートが上昇した。SC取引では10年351回債、352回債のbidが多く、351回債は週を通して概ね△0.10%台後半~△0.20%台前半。352回債は、17日の国債買入オペ後△0.30%近辺の出合いが見られた。2年391・392・393回債、5年134・135・136回債、10年336・337・338・339・340・341・342・343・344・345・346・347・348・349・350回債、20年163・164・165回債、30年58・59・60回債、40年10・11回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。